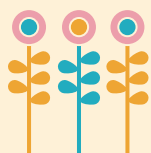


コミュニティ・カーシェアリング 実践ガイドブック



イラスト・漫画 / FUMIO OBATA
デザイン / 宮本 悠合

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会



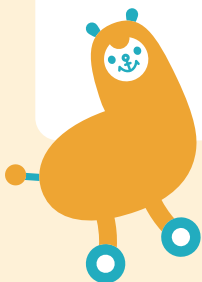
東日本大震災の後、石巻の仮設住宅で被災住民が主体的に運営する『コミュニティ・カーシェアリング』が生まれました。

2014年11月、石巻の地元行政・教育機関・住民団体・専門家らで『石巻エコEVカーシェアリング検討委員会』を結成し、『コミュニティ・カーシェアリング』の復興公営住宅への導入を丁寧に確認していきながら、その効果を検証し、継続的に推進できるモデル化に向けての検討を行ってまいりました。

この冊子は、その検討の結果、整理されたモデルを他の地域で実践していただくためのガイドブックです。高齢化・移動・コミュニティ・防災・エコ等のテーマに向き合う自治体・NPO・町内会等の方々にとって、その活動の応援になればと願っております。

マンガの街「石巻」にちなんで、マンガ風にしてみましたので肩の力を抜いて、楽しみながら読み進めていただければ嬉しいです。

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会 メンバー一同



❁ もくじ

- 石巻で生まれた「コミュニティ・カーシェアリング」って何？ 4
- サポーターの役割 8
- 「コミュニティ・カーシェアリング」を始めよう！
 - 実施までの流れ 10
 - 1. 車の確保、2. 案内（関心のある方に集まってもらう） 11
 - 3. 説明会（お試しのためのルールづくり） 12
 - 4. お試し運行 14
 - 5. ルールの制定と会の発足 15
 - 6. 車の登録 16
 - 7. 本格スタート、8. 定期会合 17
 - こんな時、どうするの？ 18
- 旅行に行こう！ 20
- 防災機能を強化する！ 22
- 地域との関わり 26
- （参考資料）吉野町復興公営住宅での実績 28
- （参考資料）利用者座談会 30
- （参考資料）道路運送法を守ろう 34
- （参考資料）石巻エコEVカーシェアシステムのご紹介 36
- （参考資料）広がるコミュニティ・カーシェアリング 38



石巻で生まれた「コミュニティ・カーシェアリング」ってなに？



東日本大震災の際、石巻では約6万台の車が被災し

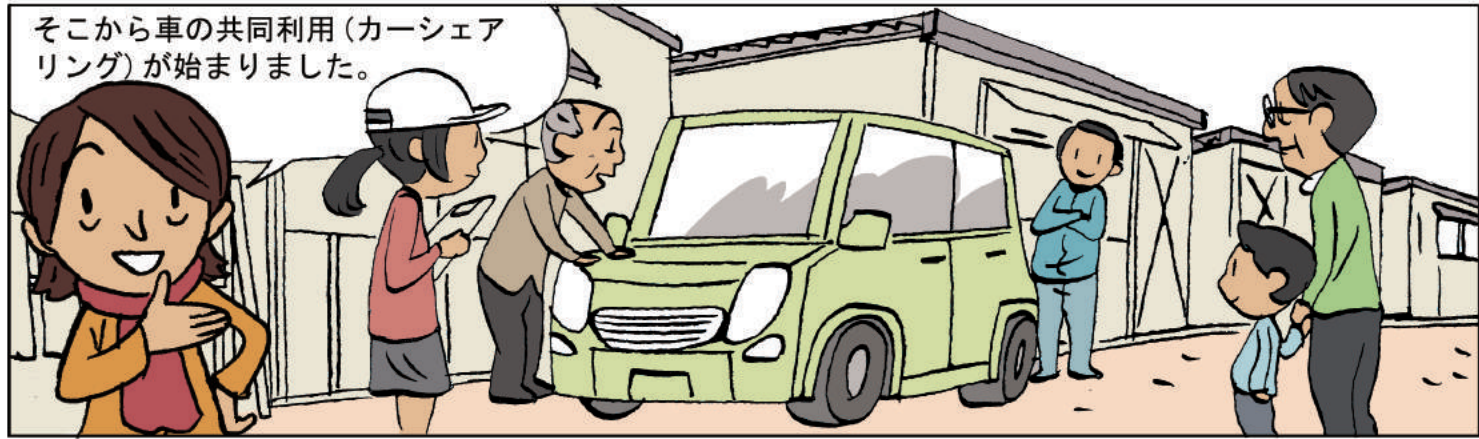


車が圧倒的に足りなかった。



一般社団法人日本カーシェアリング協会は全国の個人・企業から車の寄付を募り、

仮設住宅等に届け...



そこから車の共同利用（カーシェアリング）が始まりました。



ただし、ここで行われたカーシェアリングは、巷のカーシェアリングとはちょっと違うのです。



経費負担の仕方

鍵の管理

予約の仕方



利用する人達でルールを決めて運営していったのです。

だって、誰もやってくれないんだもん。

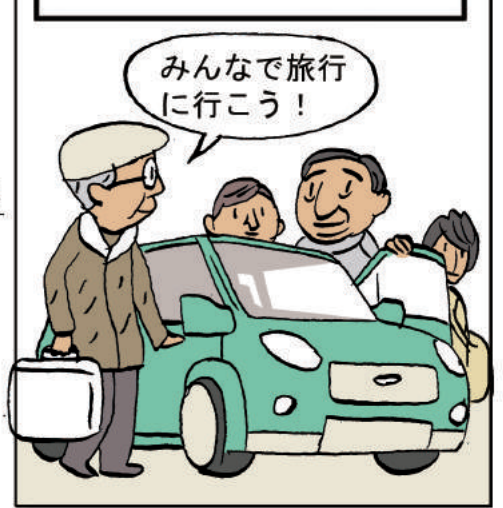
すると、会話が生まれて



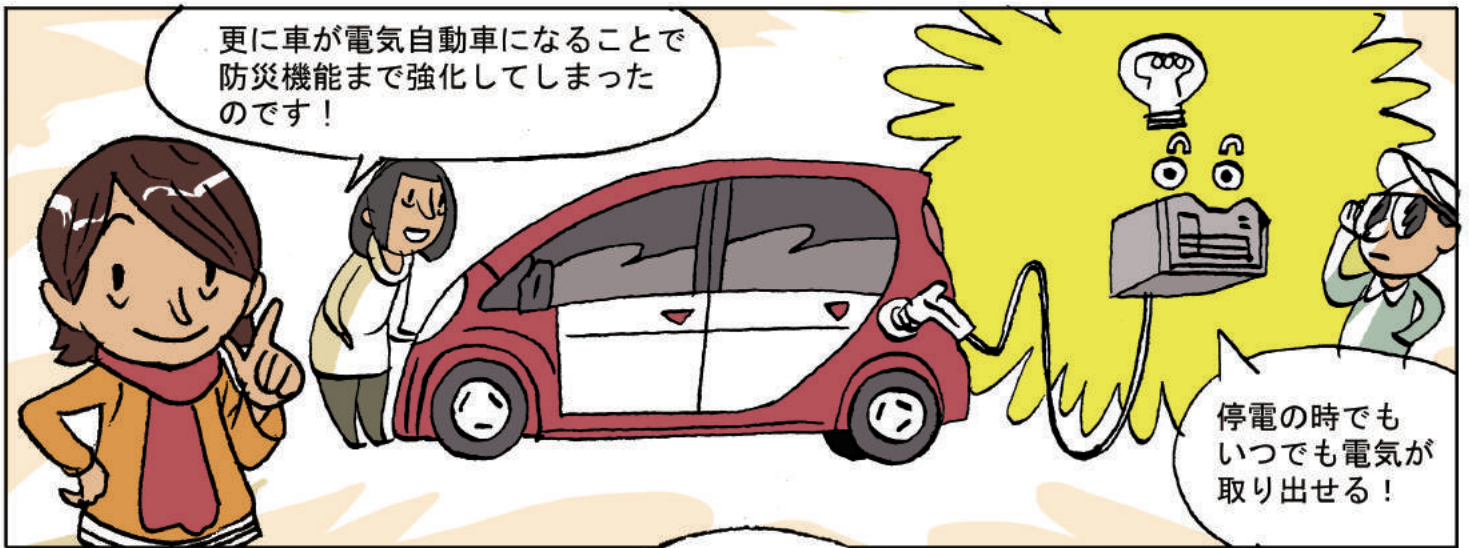
助け合いが生まれて



絆が深まりました。



更に車が電気自動車になることで防災機能まで強化してしまったのです！



地域コミュニティ（ご近所さん同士）がカーシェアリングを運営することで...

「外出促進」

「コミュニティ活性化」

「防災機能強化」

それらを実現する取り組み...



それを「コミュニティ・カーシェアリング」と呼ぶようになりました。

MADE IN 石巻!



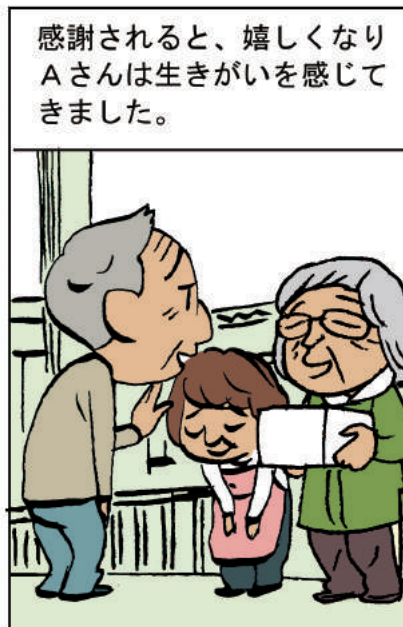
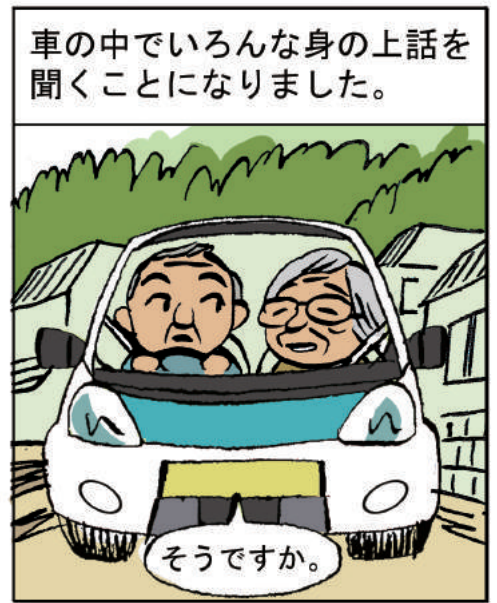
このガイドブックは

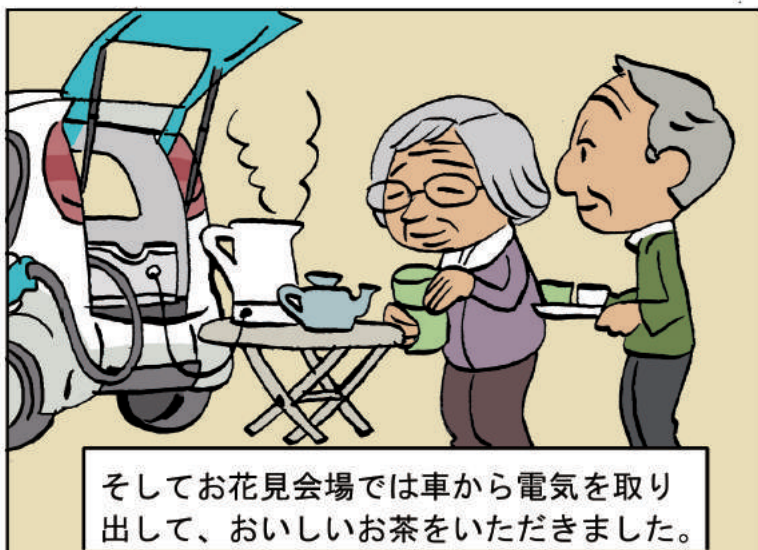
他の地域で『コミュニティ・カーシェアリング』を実践していただけるように石巻で5年間積み重ねて学んだエッセンスを整理して紹介していきます。



石巻で生まれた「コミュニティ・カーシェアリング」ってなに？

その2





ポイント

- 利用する住民自身が運営する。
- カーシェアリング活動を通してコミュニティを作る。

生まれる活動

- 車の共同利用
- 外出支援活動
- イベント（旅行等）
- 電気自動車を活用した防災訓練他



コミュニティ・カーシェアリングの要点を整理しました。



効果

- 節約
- 駐車場問題の緩和
- コミュニケーション促進
- 生きがいづくり
- お年寄りの見守り
- 防災機能の強化
- 交通弱者の外出支援



サポーターの役割

コミュニティ・カーシェアリングを行う上で、サポーターがいるととてもスムーズに進みます。関心のある人達が始めやすい環境を作り、運営が安定するまで二人三脚で寄り添いながら、その後は縁の下からサポートしていきます。

役割の一例（石巻の場合）

導入サポート

- ・説明会の実施
- ・意見交換の際のファシリテーション
- ・会則作成サポート
- ・自動車保険の案内※
- ・車両の貸出し※
- ・車両登録※

※石巻では車両に関する事を日本カーシェアリング協会が担っていますが、リース会社等にも委託することが可能です。

運営サポート

- ・広報サポート
- ・人間関係の調整
- ・各種企画の提案
(外出支援・旅行・防災訓練等)
- ・いろいろな相談を受ける

地域連携の調整

- ・行政・教育機関
企業等との連携
サポート

まずは
お試して
始めてみて!



中々利用者が
集まらなくて...



学生さんの
授業の一環
として
いかが?



石巻事例

カーシェアリング・コミュニティサポートセンター

2012年2月、石巻市が市内の仮設住宅及び被災地域のコミュニティ・カーシェアリングをサポートする拠点として設立し、日本カーシェアリング協会はその運営委託を受けました。元々利用者だった人達がサポートスタッフとなり自らの経験を活かしながら活動しています。



説明会を実施している様子



利用者を訪問し、状況を確認している様子



地元の自動車工学を学ぶ学生達が授業の一環として整備協力をしてきている様子

意見を調整する



後日個別に話を聞くと...



次の会合にて。



みんなのいる会合では言いづらいことが色々あります。それを個別に聞いて、それを踏まえた提案をさりげなくする事で全体がうまくいくのです。



程よい距離で応援する

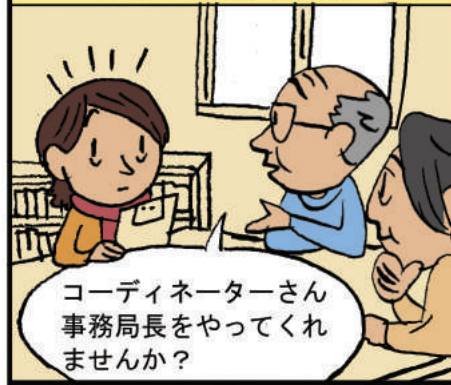


事例を紹介したり、提案をどんどんやっていきます。



ただし、決断は必ず利用者の人にしてもらいます。

時にはこんなお願いごとをされる時もあります。



そういう時は、愛を持って断るのです。

背中を押す



アンケート調査等を行い、こういう人を探していくサポートも行ったりします。



初めての活動。



あとは、お任せ...



「コミュニティ・カーシェアリング」

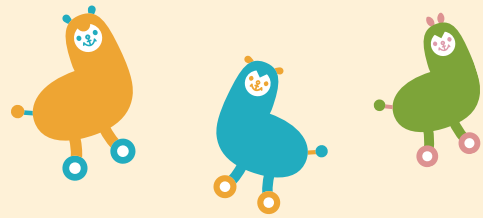
を始めよう！

その1

✿ 実施までの流れ

1. 車の確保
2. 案内（関心のある方に集まってもらう）
3. 説明会（お試しのためのルールづくり）
4. お試し運行（2週間～1ヶ月）
5. ルールの制定と会の発足
6. 車の登録
7. コミュニティ・カーシェアリング本格スタート
8. 定期会合（経費の精算）





1. 車の確保

石巻の場合は日本カーシェアリング協会が寄付を募り、集まった車を活用しています。最初のお試し運行は無料で貸し出すためスムーズにスタートさせることができます(とても重要です)。また、石巻市も市報等で車の寄付を呼び掛け、車の確保に協力しています。

✳️ その他車を確保する方法として以下が考えられます

- ① 自治体の余っている車を活用する。
- ② 車の寄付を募る。
- ③ レンタカーを利用する。

※ 個人の車を利用する場合は、所有者の方の自動車保険を使用することになり、その方に負担がかかるので、あまりお勧めできません。



2. 案内(関心のある方に集まってもらう)



説明会の実施の案内を掲示板や回覧板やポスティング等で行う。

※ 案内しても集まりがよくない場合は、アンケート調査を行って、この活動の対象になるような方(移動に困っている、車が足りていない、地域のために何かやりたいと思っている)に個別に案内して実施することをお勧めします。

「コミュニティ・カーシェアリング」

を始めよう！ その2



3. 説明会（お試しのためのルールづくり）

<p>まずは、コミュニティ・カーシェアリングがどういうものか説明します。</p> <p>要するに、この車をみんなで一緒に使うのです。</p> <p>ちょっと乗ってみますか？</p>	<p>大事なことの1</p> <p>車を運転して利用する人も</p> <p>運転代行のボランティアの方に協力してもらって利用する人も</p> <p>経費を共に負担する車の共同使用者だということです。</p> <p>お客さんとは違います。</p> <p>OK</p>	<p>大事なことの2</p> <p>タクシーとレンタカーではなく、住民同士の助け合い（互助活動）だということです。</p> <p>ボランティアの人はプロのドライバーとは違います。</p> <p>OK</p>
<p>続いて、集まった皆さんのニーズを確認します。</p> <p>お父さんが仕事に行っている間、買い物に出かけたりするとき使いたいわ。</p> <p>私は運転できないので、誰か代わりに運転できれば助かるわあ。</p> <p>時間があるので、なんでもお手伝いしますよ。</p>	<p>そして、コミュニティ・カーシェアリングにはどれ位の経費が必要で、どんな協力が必要か説明します。</p> <p>車のリース代はいくらで、</p> <p>自動車保険料はいくらで、</p>	<p>そこまで説明して、まずは2週間～1ヶ月程度のお試しを提案!!</p> <p>本当にこの地域に必要なかどうか、やってみないとわからないからね。</p> <p>この間は出来るだけ費用負担が少なくなるようなフォロー体制があれば、とても始めやすいです。</p> <p>石巻では無料です。</p>
<p>お試し運行のための仮のルールをざっと決める。</p> <p>鍵は利用頻度の高そうなAさんと、いつもお家にいらっしゃるBお婆さんに預かってもらう。</p> <p>予約するときはCさんに電話することにして。</p> <p>運転日誌をつけよう。</p> <p>5kmを1回として各自何回使用するか集計しよう。</p>	<p>しかしルール作りで道路運送法に違反しないように注意が必要です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 移送や車の貸出しに偏らない。 2. 経費以外のお金を集めない。 3. 利用形態によって負担額に差を作らない。 4. ボランティアドライバーへの謝礼を定めない。 <p>詳しくは P34, 35 の「道路運送法を守ろう」をご参照ください。</p>	<p>ということで、お試し運行スタートです。</p> <p>Let's TRY!!</p>

❁ 説明会のポイント

お試しでスタートすることを目指す。

❁ ルール作りで決めたいこと

- ・車を置く場所
- ・代表者（人柄で決めるのが大事）
- ・鍵の管理の仕方
- ・予約の仕方
- ・給油方法（ガソリン車の場合）
- ・使用単位※

※ 使用単位とは、利用頻度に応じて費用分担するための単位です。例えば5 km走行につき1回、もしくは1時間につき1回等、目安を決めてそれぞれの使用回数に応じた経費分担を行います。詳しくはP17の定期会合（経費の精算）をご参照ください。

説明会の様子



❁ コミュニティ・カーシェアリングにかかる経費（目安です）

1. 車の維持費 ※軽自動車を所有する場合。（ ）内は乗用車の場合

- ・車検代 約10万円（12～15万円）/2年
- ・自動車税 7,200円（3～4万円）/年
- ・自動車保険 約10万円/年（対人対物無制限・車両保険付・年齢制限あり）
- ・消耗品（オイル・タイヤ等）約5万円/年

2. 役員の手当て

※上記費用とは別に燃料代がかかります。

※車の維持費はリース及びレンタカーを利用する場合、リース料金が経費に加わったり、レンタカー料金になったりします。

 石巻では日本カーシェアリング協会が車を貸し出します

関わる人や活用頻度が多ければみんなが節約できます！



❁ 特に注意すべき事項（国土交通省からの指導内容）

- 移送や車の貸出しに偏らない
- 利用形態によって負担額に差を作らない
- 適切に費用を分担する
- ボランティアドライバーへの謝礼を定めない

※詳しくはP34,35の「道路運送法を守ろう」をご参照下さい。

「コミュニティ・カーシェアリング」

を始めよう！

その3

4. お試し運行（2週間～1ヶ月）

みんなで定めたルール、
いざやってみて、
「もっとこうした方が・・・」
をたくさん見つける期間。



利用者の方々にいろいろなケースを
経験してもらうために、この期間
はできるだけたくさん利用してもらい
ましょう！

利用者一人一人の意見を個別に確
認しながらルールの修正を検討し
ていきましょう！



❁ 石巻の吉野町復興公営住宅で結成した「吉野町カーシェア会」の会則と利用
ルールは日本カーシェアリング協会ホームページ（www.japan-csa.org）の
本冊子特設ページにて紹介しています。



5. ルールの制定と会の発足



「コミュニティ・カーシェアリング」

を始めよう！

その4

6. 車の登録

本格的にコミュニティ・カーシェアリングを行う際、車の登録や契約が必要になります。自分達にあった形態で実施してください。



✿ 車を所有する場合

車両管理は自分たちで行うこととなりますが、経費が最もかかりません。個人の車を借りて（代表者の車を使用する等）行う場合は、事故があった場合、車を借りている方の自動車保険を使用することになるため保険等級に影響してしまうので注意が必要です。団体名義で登録することをお勧めします。

必要な手続き

1. 自動車保険契約

- ※ 年齢に制限を設けると保険料が一気に安くなります。
- ※ 免責はできるだけ無しの方が、事故の時等の負担がなくて安心して利用できるのをお勧めです。

2. 車庫証明（地元警察署）

3. 名義変更（地元運輸支局）

- ※ 団体名義にする場合は、会の固定電話・ガス・水道などの公共料金の領収書が登録に必要になります。

✿ リースの場合

リース会社との契約内容にもよりますが車両管理は自分たちで行うのが基本です。色々と手続きを自分たちで行う必要がありますが、リース会社や車種やプランを慎重に選べば経費を安く抑えることができます。契約は基本的に年単位の長期となります。

必要な手続き

- ・ リース契約 ※様々なプランがあるので要吟味。車両を所有する場合の1～3も必要。（リース会社に委託も可能）

✿ レンタカーの場合

車検代・修理代・点検代・自動車保険料が料金に含まれます。車両管理は基本的にレンタカー事業者が行うので、車両管理の労力は少なく済みます。また、自動車保険の契約・名義変更などの登録手続きも必要ありません。1ヶ月単位で借りることが可能です。但し、リースと比べると割高になる場合が多いです。

必要な手続き

- ・ レンタカー契約

7. コミュニティ・カーシェアリング本格スタート

車の登録が完了したら、晴れて本格スタートです！（やった！！）



8. 定期会合（経費の精算）

定期的に集まって、お茶をしましょう。
 その中で、ルールを修正したり、旅行を企画したりといった話題を作っていきましょう。
 また、経費の精算日を定期的に決めて、不足分・過剰分を精算する機会を作りましょう。



精算イメージ

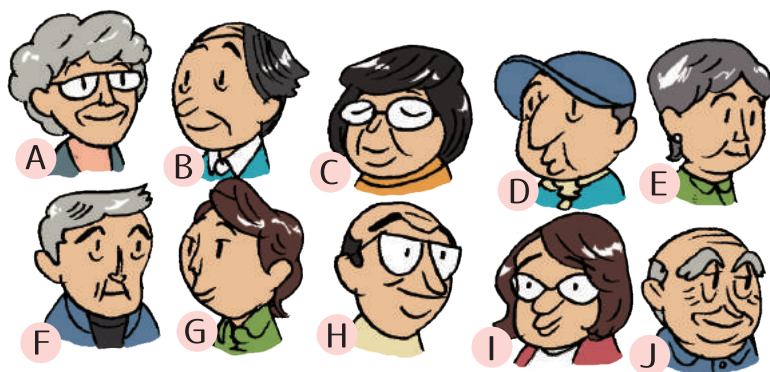
利用者：10人（A～J）

不足経費：5,000円

利用回数合計：100回

期間：1ヶ月

利用回数：A20回、B18回、C15回、D13回、E10回、F8回、G7回、H5回、I3回、J1回



負担額

A：1,000円 B：900円 C：750円 D：650円 E：500円
 F：400円 G：350円 H：250円 I：150円 J：50円

「コミュニティ・カーシェアリング」を始めよう！

その5



こんな時、どうするの？

よく聞かれるベスト3

1. 人間関係のトラブルを避けるにはどうしたらいいですか？

- きちんと説明をする。
 - ▶ 問題のある言動をする人は、タクシーやレンタカーと誤解していることが原因の場合が多いので互助活動であることをきちんと説明すれば解決することがある。
- 個別に事情を確認する。
 - ▶ それぞれの気持ちを第三者が確認し、調整を行う。
- 外出支援は、相性の合う人同士でパートナーを組む。



2. 利用者の経済的負担を減らすにはどうしたらいいですか？

- 旅行等のイベントをして参加費の一部を会の運営費に充てる。
- バザーを企画し、収益を会の運営費に充てる。
- クラウドファンディングを行う。(インターネットで寄付を募集する)
- 補助金の申請を行う。



3. 利用者を増やすにはどうしたらいいですか？

- チラシ等を作って募集する。
- アンケート調査を地道に行い利用対象者を見つける。



コミュニティ・カーシェアリングを行う時に大事にしたい心

他人を気遣う心

一緒に使う人が気持ちよく使えるような配慮や、運転代行していただいている方への感謝の気持ちがあるとスムーズに物事が進みます。

前向きな心

問題が起きたら、みんなで力を合わせて乗り越えるテーマが現れたと思えるといろんな活動に発展していきます。

おおらかな心

いろいろな人と一緒に車を利用するので、細かいことを気にしだすとキリがありません。全てを包み込むような心で取り組みましょう。

Q & A コーナー



Q. 車は何台位が適切ですか？

- A. 利用人数、利用頻度や使い方によるので、まずは1台から始めて、経費のことも考えつつ、様子を見ながら増やしていくのが良いでしょう。

Q. タクシーやレンタカーとの違いは何ですか？

- A. 色々違いはありますが、わかりやすい2点でお答えすると、1つは価格が決まっているかどうかです。あくまでコミュニティ・カーシェアリングは経費を会員同士で平等負担するというシステムなので、一定期間利用した後精算することで初めて一人当たりの負担額が決まります。2つめは、住民同士のボランティアな互助会なので、関わる人の都合が優先されます。例えば外出する当日に運転代行をお願いしても、その人の都合が悪ければ対応してもらえません。

Q. 車はどうやって調達したらいいですか？

- A. 石巻の場合、寄付を募って集まった車で実施しています。まずは身の周りで募集するのがよいと思います。地元の車屋さんとかに相談してみるのも手かもしれません。尚、日本カーシェアリング協会では、車の貸し出しについての相談も受け付けています。

Q. 外出支援を始める際に気を付けることは何ですか？

- A. 運転代行を依頼する方への説明をしっかりと行うことが大切です。あくまでボランティアな助け合いだという事を重々承知したうえで、協力者への最低限の気遣いやマナーを了解していただく必要があります。あと、高齢の方は、この活動に参加することについての家族の同意をもらっておくことも大切です。

Q. 新しくメンバーに加わるための手順を教えてください。

- A. 会則や利用ルールを確認していただいた上で代表者もしくは代表に委任された担当者に申込書を、提出することで利用いただけます。(自分で運転される場合は免許証のコピーも必要です。) 利用を終えるときは、退会届を提出して退会となります。

Q. 一番の課題は何ですか？

- A. ずばり、協力者があらわれるかどうかです。特に移動困難者の方々の運転代行を引き受けてくださる方がいらっしゃれば活動は非常に活発になります。

旅行に行こう！



住民同士の親睦を深める最もインパクトのある方法

自分たちで企画し、カーシェアリングの車で行く旅行では

会話が生まれ

それは旅行！

〇〇温泉旅行ドライバー募集

参加費少しおまけしますか...

それでウチの孫がね...

地元の会からのお知らせ

ドライバー募集

新しい出会いがあり

財源の確保もでき

途中で給電を加えると自然に防災の訓練になり

私もカーシェアリング利用したいと思っていましたがなかなか言い出せなくて...

参加費の一部を車の維持費へ

車の電気で沸かしたお茶で一服！

注 ※不特定多数に参加を呼びかけて参加費を受け取ると旅行業法に抵触しますのでお気を付けください。

充電場所をうまく活用すると燃料代を節約でき

役割が生まれ

外出の機会が生まれ

道の駅

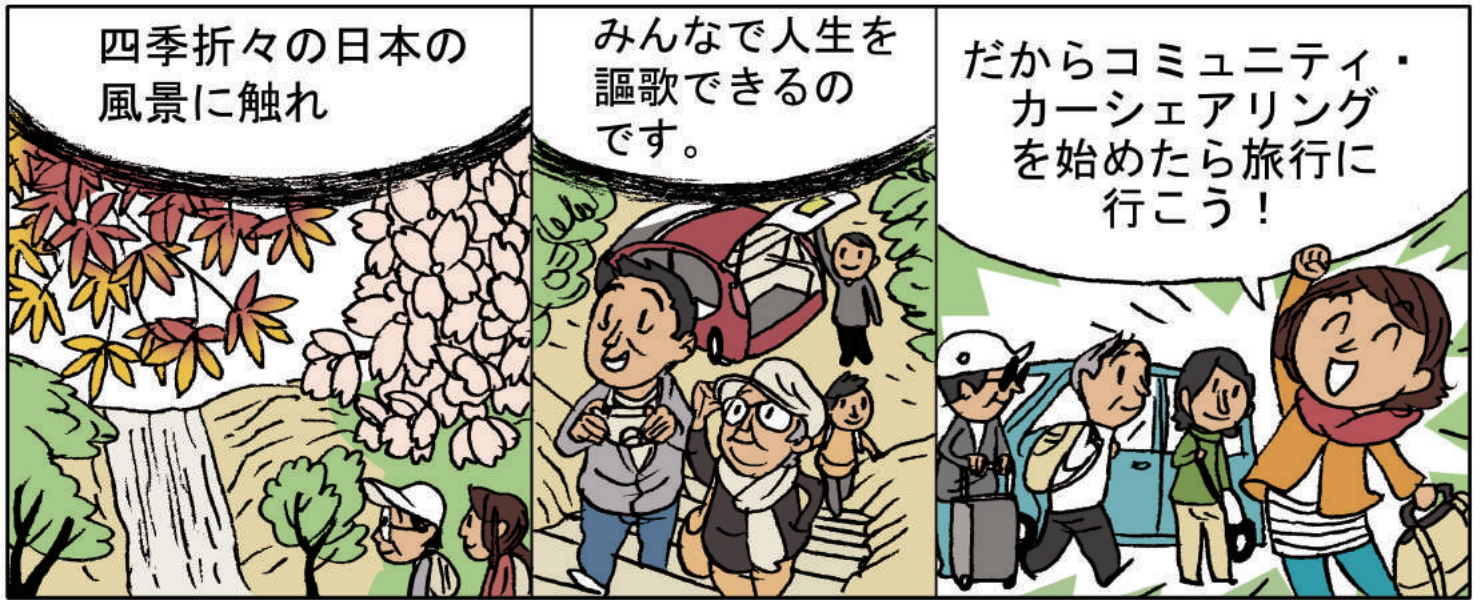
Ev Quick

無料

ドライバー

いいな、行きたい！

カメラ係



----- とは言うものの、旅行を企画するのは結構大変だったりします。 -----

そこで・・・

石巻では5つの仮設団地が協働でEV旅行を実施！

定期的に行った会合の様子



***** 各団地の担当者が定期的集まり、幹事を持ち回りにして、3ヶ月に1回のペースで旅行を実施してきました。

結果、団地同士の交流も深まりました。



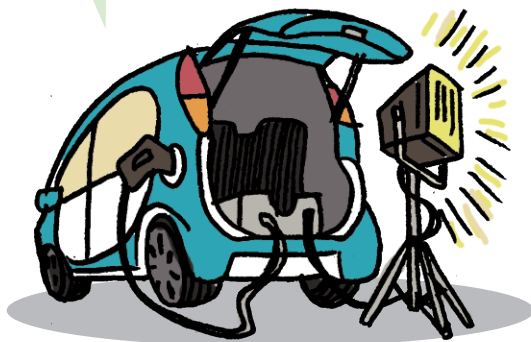
防災機能を強化する！ その1

コミュニティ・カーシェアリングは電気自動車を活用することで
コミュニティの防災機能を強化します。



★ 電気自動車は移動型電池！？

どこでも車に蓄えた
電気を取り出せる。



建物に接続して
建物の電源になる。

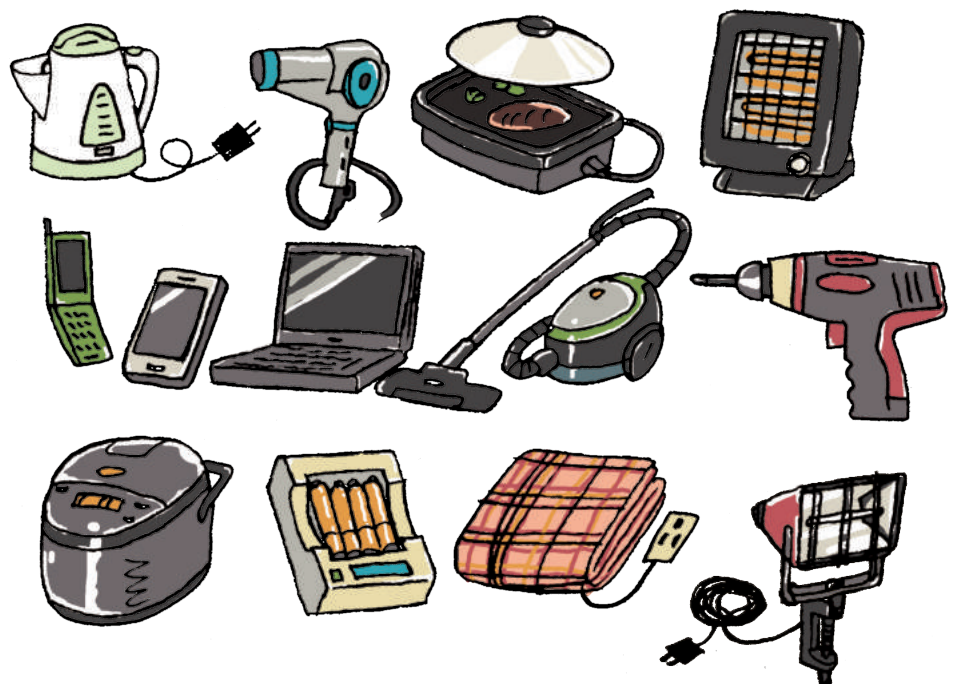


★ 一般家庭1～2日分の電力が使える。



例えば三菱アイ・ミーブ（軽自動車）は、駆動用バッテリーの電力だけで、
5～6時間※の使用が可能です。（満充電 / 最大出力 1500W の場合）
これは、一般家庭約一日分の電力に相当します。 ※16.0kWh 仕様車の場合

こんな電気製品が使えます！





コミュニティ・カーシェアリング的 防災のポイント

日常で使うから、 非常時にも使える。



お祭りやイベント等のコミュニティ活動で日常的に屋外用電源として活用されることで、非常時にもスムーズに電源を確保できるようになるのです。

★ 石巻で実際に活用された事例

お花見のお茶用にお湯を沸かす電源に活用



夏祭りの照明の電源に活用



運動会の本部テントの電源に活用



防災機能を強化する!

その2



石巻の吉野町復興公営住宅に導入されたシステムを活かした防災体制についてご紹介します。

その日は突然訪れた...

地震の影響で石巻全域が停電となった!

あっ、電池が殆ど無い! 充電して無かった。

よし! こんな時は吉野町復興公営住宅へ!

Aさん、今、危機対策課から ●●地区の避難所に電源として1台電気自動車の要請がありました。駆けつけてもらえますか?

はい、わかりました!

カーシェア会員Aさん

ここには太陽光発電のみで電気自動車を充電できるシステムを搭載! ※詳しくはP36, 37

こうなると電気自動車は、動かさない、電気も取り出せない、その能力を発揮できないのです。

系統電力を補完するだけの太陽光発電では非常時にはうまく機能しない可能性があるからね!

しかし、雨が降り出してきた。でも大丈夫!

今日は発電しなさそう...

電気自動車から電気自動車へ充電ができるため、雨天でも車同士で電気を分け合い複数個所の給電に対応することができるのです。

充電できたし、いざ避難所へ!

無事、車から電気を供給できました。

石巻市内では、各地区にこのような電気自動車を活かせる防災拠点設置の協議を進めています。

石巻市

電気自動車を非常時でも活用できる環境を作り市民と共同で防災体制を築く...

石巻防災スタイル!

イエーイ!

実際に行われた防災訓練

2015年11月、石巻市内で電気自動車を使用した総合防災訓練が行われました。

石巻市内全域が停電状態の際に、電動車両を活用し市内の電気を必要とする場所へスムーズに電力を届けることを想定し、市内8箇所ですべて同時に訓練を実施しました。



- ★ 1 吉野町復興公営住宅
- 2 上釜地区
- 3 向陽町新栄会
- 4 貞山小学校
- 5 石巻小学校
- 6 仮設大橋団地
- 7 不動町
- 8 鹿妻小学校

電気自動車9台を吉野町復興公営住宅に集め、

「太陽光発電のみを活用した、電気自動車充電システム」で充電訓練を実施。

その後、市内8箇所の被災想定地区へ向かい、各地区で給電訓練を行った。



充電訓練



④

給電訓練

⑤

⑥



普段カーシェアリングで電気自動車を活用しているユーザーと地元ディーラーが各地区に駆けつけました。



地域との関わり



コミュニティ・カーシェアリングによって生まれる関わり方の連鎖について紹介します。

私達が普段コミュニティ・カーシェアリングに使用している車です。

この車のタイヤ交換は地元大学で自動車工学を学ぶ学生達が授業の一環として行ってくれています。

その大学の先生は、コミュニティ・カーシェアリングをよりよい仕組みにするために定期的に協議を行う検討委員会のメンバーでもあります。

その検討委員会では地元の大学だけでなく、法律や技術の専門家や地元の自治連合組織や自治体が参加しています。

中でも自治体では、コミュニティ・カーシェアリングが扱う分野は非常に多岐にわたるため10のセクションの課長がメンバーとして定期的集まって意見交換をしています。

それぞれの政策との連携を検討したり、補助金をうまく活用してそれらの連携がスムーズにいくような協働を行ったりしています。

補助を使って、軌道に乗せる!

更に市長も年に数回直接状況を確認し、市全体の方針の中にこの取組を組み込んでくださっています。

縦にも横にも割れていない球体の行政です。

そもそもこの車は、市が市報で募集して車が不要になった市民から譲り受けたものでした。

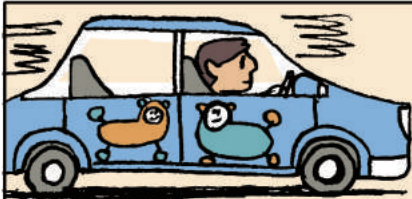
どうぞ使って下さい

ありがとうございます。

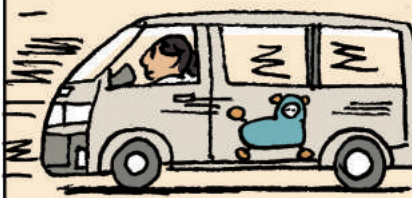
その車の点検は、地元の整備工場が年1回サービスでしてくれているのでとても安心です。

更にその近所のガソリンスタンドでは、ガソリン代を特別割引して下さり、給油する度に温かい気持ちになります。

福祉の分野において、社会福祉協議会や地元のNPO、ソーシャルワーカーとの連携も欠かせません。現場で困っている人がいると、コミュニティ・カーシェアリングを運営するコミュニティと相互に連絡のやり取りがなされます。



実はそんなやり取りをしているNPOの活動車も日本カーシェアリング協会に寄付で集められた車を活用しているのです。



コミュニティ・カーシェアリングで優しい未来を作りましょう!



(参考資料) 吉野町復興公営住宅での実績



石巻エコEVカーシェアリング検討委員会でサポートを行った吉野町復興公営住宅での実施結果(2015年度)をデータと共にご紹介いたします。

吉野町復興公営住宅の特徴

- 世帯数：約 150 世帯 (約 300人)
- 近隣で被災された方が多く入居



この団地で結成された「吉野町カーシェア会」のメンバーの証として、3種のマグネットを配布し、そのお宅のドアに掲示しています。



運営役員



応援団



利用者

実施内容

住民の入居が完了した6月にコミュニティ・カーシェアリングを導入しました。現場の状況を確認しながら検討委員会での検討や東北運輸局との協議等で課題が整理・解決できたことを利用者の皆さんにお伝えした結果、1月に吉野町カーシェア会を結成し、ルールを新たに制定することになりました。1カ月のテスト運行の後、2月にルールを見直し、会としての本格的な活動を開始しました。

4月	鍵渡し開始(～5月仮設住宅からの引っ越し期間)	10月	旅行(鳴子温泉)
6月	カーシェアリング導入 説明会実施、テスト運行開始	11月	防災訓練実施
7月	電気自動車(2台体制)で本格運行開始	1月	吉野町カーシェア会設立 新ルールでテスト運行期間(1台体制)
9月	地域ハイキングで 給電デモンストレーション実施	2月	吉野町カーシェア会本格運行開始

利用状況

車両のメンテナンスなどによる代車利用や、利用のルール変更による一時的な利用減少を除けば、月毎の変動はあるものの安定して利用が行なわれました。吉野町カーシェア会の会員数は30名(2016年2月末)となり、入居者の約1割程度の方が、会員として参加して下さいました。

利用人数(人)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
ドライバー	3	5	4	3	3	2	2	2	2
外出支援利用(団地内)	7	10	10	8	7	8	11	10	12
外出支援利用(団地外)	6	6	7	7	4	4	4	1	4
合計	16	21	21	18	14	14	17	13	18

利用回数(回)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
個人利用	8	15	10	13	3	6	4	13	5
外出支援利用(団地内)	15	28	21	24	27	19	41	22	32
外出支援利用(団地外)	12	14	16	22	8	10	10	1	14
その他	0	3	5	6	6	5	9	0	12
合計	35	60	52	65	44	40	64	36	58

利用距離(km)

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
利用距離	1012	1185	1121	1118	1497	1140	1132	654	1008

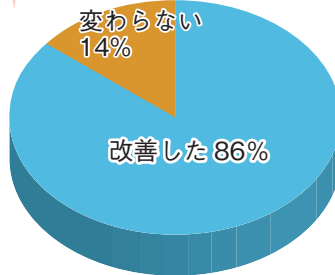
アンケート結果

(有効回答総数：約150世帯中 68世帯)

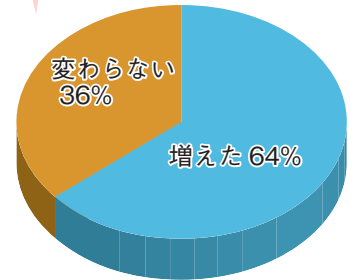
移動

移動困難な状況が改善され、外出頻度が増加している。

Q. 移動困難が改善しましたか？※



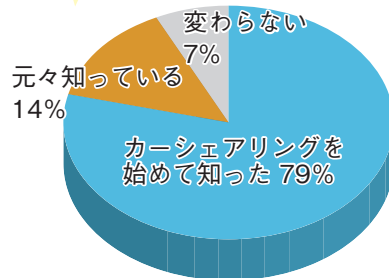
Q. 外出頻度は増えましたか？※



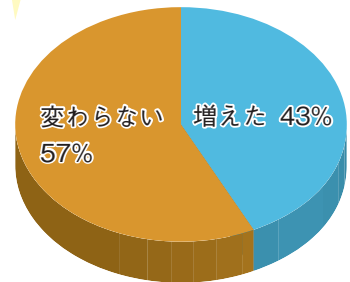
防災

電気自動車の防災利用への認知が高まり、避難時の住民間の連携も取りやすくなった。

Q. 電気自動車の防災利用
(車から電気を取り出せること)について知っていますか？※



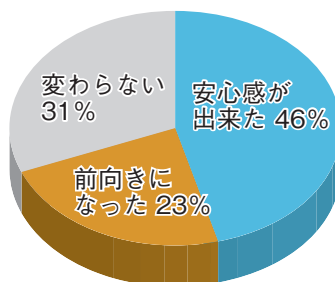
Q. 災害時、声を掛け合って一緒に避難できる人が家族以外に増えましたか？※



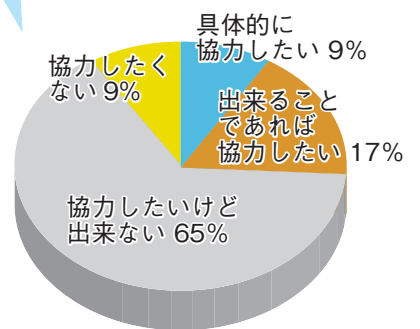
精神面

精神面でもポジティブな変化があり、参加できる地域活動としても関心が生まれている。

Q. 気持ちに変化はありましたか？※



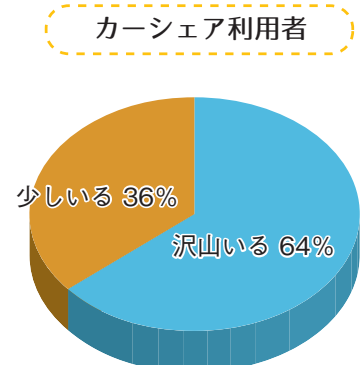
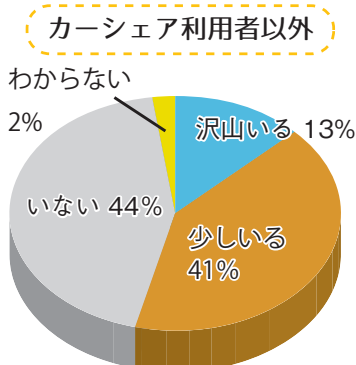
Q. カーシェアリングへの協力について



コミュニティ

利用していない人と比べて人づきあいが圧倒的に増えている。

Q. 団地内に仲の良い知り合いはいますか？



※の設問はコミュニティ・カーシェアリングの利用者のみにご回答を頂きました。

(参考資料) 利用者座談会

実際にカーシェアリングを利用している皆さんの声をご紹介します。

ファシリテーター:吉澤武彦(日本カーシェアリング協会)
撮影協力:小野寺香那恵(カハテルゲフォトスタジオ)
ライター協力:千葉暢子/デザイン協力:吉田耕作

2016年2月8日に、吉野町復興公営住宅の利用者(吉野町カーシェア会の会員)を対象に実践されているコミュニティ・カーシェアリングについて語り合う座談会を開きました。



Cさん

夫婦暮らし(車あり)
利用歴 8 カ月

Aさん

一人暮らし(車なし)
利用歴 8 カ月

Dさん

親子暮らし(車なし)
利用歴 4年3ヶ月
(仮設住宅で約3年6ヶ月利用)

Bさん

夫婦暮らし(車なし)
利用歴 8 カ月

Q:カーシェアリングをどんなことに利用していますか。

Aさん 主に病院です。あとは、お墓参りや身内で何かあった時にも利用しています。地元のスーパーがあるので日用品は歩いて買い物へ行きますが、引っ越し等の買うものが多い時とかは買い物にも利用させていただいています。引っ越してくる前から、移動がタクシーばかりになって生活が大変になることが一番心配だったから、それが解決されて、本当に喜んでいます。

Bさん 私は、お買い物の時。銀行や役場に行く時にも利用しています。夫婦とも車がないので、ちょっとした買い出しやそれぞれの病院に行く時、とても助かっています。

Cさん 昨年引っ越してきたばかりの頃、お父さん(夫)が事故で怪我をした時に、しばらくの間、病院に連れて行ってもらいました。87歳になる義理のお姉さんもこの団地で一人暮らししているのですが、「こういうのがあるんだよ〜」って教えてあげたら、今では病院通いにしよっ

ちゅう利用しています。先月は8回も利用していました。本当に喜んでますよ〜。

Dさん お婆さん(母親)の病院までの送り迎えとかに使わせてもらってます。

Q:交通手段として、バスやタクシーもありますが、実際カーシェアリングを利用してみてどう違いますか。

Aさん 私は、バスは利用しないんです。目が悪く、電光掲示板もよく見

えないというのもあるし。タクシーは利用していましたが、料金がかさんでしまうのが大変で…。だから、カーシェアリングは、経済的にもすごく助かっています。

Cさん 気心がしれている人が運転してくれるし、安心感がありますね。

Bさん そうですね。ドライバーさんが玄関まで来てくれるから…。本当に嬉しいです。

Q:車から電気を取り出せるということについてどう思われますか。

Cさん カーシェアリングを始めて、初めて知りました。緊急時や災害時に使えるからとても安心ですね。

Aさん いざという時のために車の電気を使えるということをしっかり覚えておかないといけないね！！

全員 そうですね。

Dさん 私は、防災訓練の時、市内の小学校に行って、電気自動車から電気を取り出して避難訓練している人たちにコーヒーをふるまってきた

した。コーヒー目当てもあるでしょうが、結構人が集まりましたね。(笑)

Q:外出支援ドライバーの方は、どんな想いでボランティアをされているのでしょうか。

Dさん 私は、普段お婆さん(母親)の送り迎えや個人的な用足しで使わせてもらっている以外に車を運転されない方に運転のお手伝いをしています。仮設住宅に住んでいた頃から同じ団地の方と一緒にやっていた。震災前には車はありましたが津波で車が流されてしまい、現在は持っていません。車の購入費用に加えて維持費も掛かってしまうので…。その点カーシェアリングなら、必要な時に使えて、経費もみんな分担するので、節約できてとても助かってます。ドライバーは、仮設で一緒に車を利用していた人に「手伝って！」って言われたことがきっかけでした。たいしたことではありませんが、車を使わせてもらっている恩返しと、人の役に立てればという想いで続けています。安全にみなさんを送り届けることを心がけて毎回運転しています。ただ、今では「ご飯のおかずに…」と利用者の皆さんが自宅に差し入

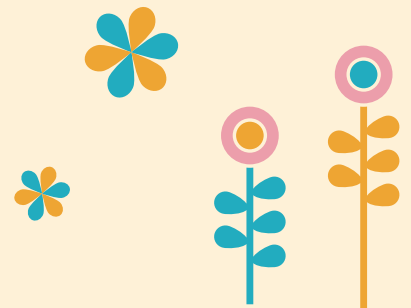
れを持ってきてくれたりして、逆にお世話になっています(笑)。

私が、都合が悪い時は、今日は来ませんが、メンバーのEさんに手伝ってもらったりもしていますし、日曜日はFさんが仕事が休みなので、「日曜日はできるだけ手伝うよ」と言ってくれています。

Cさん 代わりに運転してくれる人がいるから、私達も車を利用できるんですから…。本当にありがたいです。

全員 本当にDさんには、感謝しています。

Dさん (照れ笑い)



▲小学校の防災訓練に協力した時の様子



▲通院のサポートをしている様子



Q:カーシェアリングを始めてよかったな—と思うことはありますか？また、気持ちの変化等があれば教えてください。

Aさん 本当によかったと思っています。今までお茶っこ*をしたことない人ともこうやって集まってお話することができたし。今日の集まっているみなさんも元々同じ町内に住んでいたの、顔は知っていたけど、お話ししたりとかはほとんどなかったんです。Dさんは、お父さんのことはよく知っているんですけどね。

※お茶っこ…お茶会

Bさん 震災前は話したことがない人たちと、カーシェアリングを通して仲良くなりました。カーシェ

アリングの車で温泉へ行った時、車の中でもずっと話をしていたのですが、次の日も一緒に参加した人の部屋に集まって二次会で盛り上がりました。みんな震災前は、顔を知ってるだけの人でしたが、今ではよくお茶っこするようになりました。

Cさん 新しい住宅に移ってから、環境に馴染めず孤立してしまう人もいます。そういう人にとっても気持ちの変化はあると思います。声を掛け合う人たちがいると外に出るきっかけになって閉じこもりにならなくて済むと思います。

Bさん カーシェアリングを利用することで、利用者同士の信頼関係も生まれていると思います。

Q:この活動をみなさん、これからどうしていきたいですか。

Cさん 続けていきたいです。そのために会へできるだけ協力したいと思っています。

Bさん みんなでまた旅行にも行きたいわね。温泉じゃなくても旅行であれば良いんです。みんなと行くから楽しいですよ。

Aさん そうですね。あと、Dさんが運転するから良いですよ！これから暖くなるし、家でじっとしていたくないもんね。またみんなで行きましょう。そのときは、Dさん、宜しくお願いします(笑)。

Dさん もちろんです！



Q:みなさんにとって、カーシェアリングとは何ですか。

Aさん 便利なものです。玄関先から玄関先まで送ってくれて嬉しいですね。

Cさん 安心ですね。お父さん(夫)が運転をしているけど、歳だから、いつまで運転できるかわからないから、加入しました。引っ越してきた団地にこういう仕組みがあってとても安心です。

Dさん 私にとっては、生活の一部のような気がします。

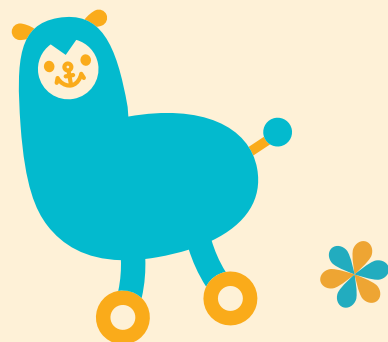
Q:これから始めようとしている方に伝えたいことはありますか。

Aさん 私達はすごく便利よく活用

させてもらってますが、それだけじゃなくて、閉じこもりがちの人が外出するきっかけになるし、利用している人同士顔を合わせることも多いので、そのへんで会っても自然に声かけて話をするようになるし、すごくいいと思います。

Cさん 以前住んでいた仮設住宅では、カーシェアリングがありませんでした。この団地に引っ越してきて初めて知って、今はとても便利に使わせてもらっています。息子さんと住んでいらっしゃる年配の方も、息子さんがいない時とかカーシェアリングがあるとホント助かると私は思います。もっとカーシェアリングの活動を知ってもらいたいですね。私はカーシェアリングをおすすめします！

みんなで楽しく
おトクに
利用してまーす！



▼旅行に行った時の様子



(参考資料) 道路運送法を守ろう！

コミュニティ・カーシェアリングを始める前に押さえておきたい法律

＊ 道路運送法第2条第3項 では

「他人の需要に応じ有償で自動車を使用して、旅客を運送する事業を旅客自動車運送事業である」

＊ 道路運送法第80条第2項 では

「自家用自動車は、国土交通大臣の許可を受けなければ、業として有償で貸し渡してはならない。」

と規定されており、該当する場合には同法に基づく許可を得ることが必要です。



対価を受け取る送迎行為や車の貸出し行為は、許認可がなければやってはいけません。

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会では、吉野町復興公営住宅での社会実験実施にあたり東北運輸局並びに国土交通省へと繰り返し相談・協議を行い、許認可を必要とせず、適法性と運用しやすさを両立できるシンプルな仕組みの確立を模索し、次ページの「4つの注意」として整理しました。



東北運輸局並びに国土交通省への確認内容の詳細及びその他関連情報は、日本カーシェアリング協会ホームページ (www.japan-csa.org) の本冊子特設ページにて応答記録を公開しておりますので詳しくはそちらをご覧ください。

道路運送法を順守するための4つの注意

1

移送や車の貸出しに偏らない

会員同士で予めルールを定め、移動・防災・旅行等イベントの実施・シェアリングによるコミュニティの形成といった総合的な目的を実現するための地域の互助活動の一環として実施してください。



2

適切に費用を分担する。

事前に、又は利用時等に会員から集めた会費は定期的に精算し、利用頻度等に応じて適切に経費を分担・負担することが重要です。



3

利用形態によって負担額に差を作らない

自分で運転して車を利用する人と住民ボランティアに運転の代行をお願いして車を利用する人の間で会費の額などに差が生じると「送迎における対価」とみなされるため注意しましょう。



4

ボランティアドライバーへの謝礼を定めない

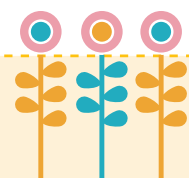
燃料代・駐車場代等実費を除き、ボランティアドライバーへの謝礼は換金性のない物品や自発的に行なわれる謝礼といった一部の例外を除いて原則認められません。但し、会計係やイベント運営など会全体の運営に関わる役員に対して、運転行為の対価ときちんと区別して手当てを支払うことには問題はありません。



* 参考事例 吉野町カーシェア会の場合 *

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会で現場サポートを行った吉野町復興公営住宅では、

- ① カーシェアリングを通して助け合える地域づくりを目的として、車を共同で使用しながら、外出支援活動、旅行、防災訓練などを行う「吉野町カーシェア会」を約20人の団地住民有志で設立しました。
- ② 5km もしくは1時間利用毎に500円を利用後に担当者に預け、数か月に1度経費を計算し、利用頻度に応じて適切に分担して負担するように精算を行っています。
- ③ 車が足りなくて利用する人も、そのまま運転代行をお願いして利用される人も同じ条件で車を利用しています。
- ④ ボランティアドライバーの方への特別な報酬はないのですが、買い物に送ってもらった時などに一品購入して御礼を渡したり、おかずを多く作った時などにお裾分けをする等して自然な形で任意に御礼をされていていらっしゃる方も中にはいます。その他、会計係など会を運営している役員の方々には定額の手当を支給しており、その中に一部ボランティアドライバーをしてられる方もいます。



(参考資料) 石巻エコEVカーシェアシステムのご紹介

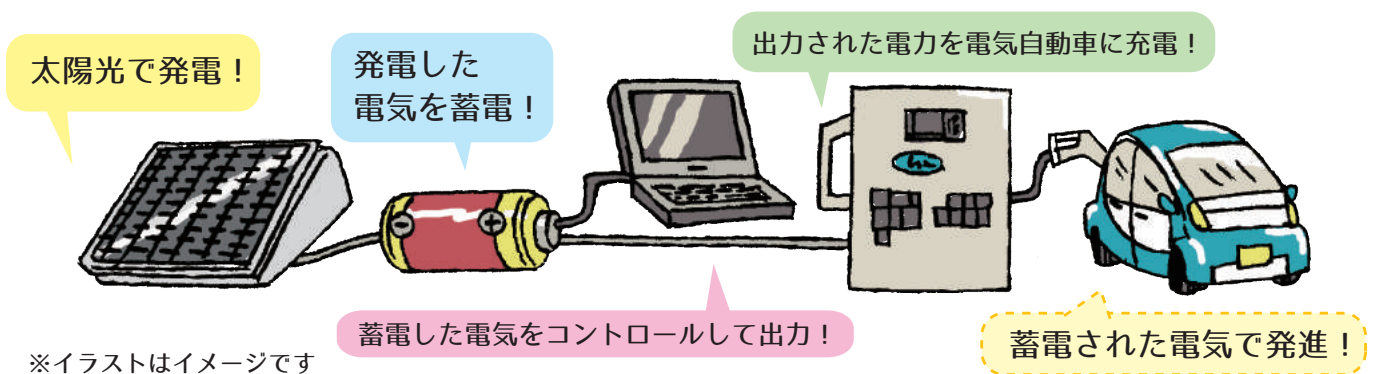
吉野町復興公営住宅では、太陽光発電で充電する電気自動車でカーシェアリングを行いました。(『エコEVカーシェア』と私達は呼んでいます。)そこに実際に使用されたシステムをご紹介します。



✿ まず、何が必要か？

エコEVカーシェアを実現する5種の神器

1. 太陽光パネル
2. 蓄電器
3. パワコン
4. 充電器
5. 電気自動車 (EV)



● 吉野町のシステムで実際に使用している機器

太陽光パネル：太陽光電池モジュール（三菱電機） 蓄電池・パワコン：V2B+リチウムイオン蓄電システム（古河電工）
充電器：EV パワーステーション（ニチコン） ※設計・各種盤面製作：三菱電機プラントエンジニアリング

✿ 設置機器の三要件

1. 誰でも練習すれば使えること

できる限りシンプルな操作で簡単に使える設計としましょう。

2. 失敗に寛容なこと

操作を間違えても動作不良とならないこと、イレギュラーが起きても自動で復旧出来ること、といった利用者が安心して試してみようと思える配慮が肝要です。

3. 災害時に必要な機能が日常に組み込まれていること

災害時の非常用電源としての機能を期待する場合、災害時に必要とする動作が日常の利用に組み込まれていればベターです。普段から慣れ親しんでいれば、災害時でも落ち着いて対処が出来ます。その他、防災訓練などを実施して積極的に利用者が体験する機会をつくりましょう。

※EV 充電設備は様々な補助金の対象となっているので、ぜひ有効に活用してください。

吉野町のシステムの3つのこだわり

吉野町復興公営住宅のシステムは三菱電機フラントエンジニアリング、古河電工、CDS 経営戦略研究所の協力の元、様々な壁を乗り越えて実現しました。その過程で生まれた、こだわりや工夫をご紹介します。

1. 太陽光のみで電気自動車（EV）を充電

太陽光発電は、発電量が不安定なため、EV 充電機器自体が電力会社からの系統電力との併用を前提とした設計となっています。ただ、その場合、肝心の災害時に通常運転できないリスクがありました。防災機能の強化を目指すこの取組は、最初から系統電力に頼らない太陽光発電のみの設計に挑戦しました。実際天気の悪い日などは発電しないため充電できないのですが、晴れた日には積極的に充電する等、利用者のシステムに対する理解と、低電力でシャットダウンした後も自動的に起動する等のソフトウェアの改修であったり、充電可能時にはランプを点滅させる等現場での使いやすさを重視した上記3社のアフターフォローによって現場で問題なく運用できるようになりました。



2. 自由に動ける移動式

社会実験として始まったこのプロジェクトは、実験後すぐに撤去できることが必須条件でした。そこでカーシェアリング用として寄付いただき活用していたトラックの荷台にシステムを積んだ状態で設置することになりました。結果、設置のコスト削減につながり、太陽光パネルを設置している他の施設に移動させて電気自動車を充電できるといった可動タイプの柔軟な防災体制を作ることに繋がりました。



3. 既存の建物を傷めない施工

このプロジェクトの実施場所が吉野町復興公営住宅に決まった時には既に建物の工事がほぼ完了しており、屋上に太陽光パネルを設置するための追加工事を行うには、防水補償の観点から非常に難しい実情がありました。そこで、通常の施工ではなく、専用タンクでパネルを固定する施工方法を選択しました。既存の施設への設置の場合におすすめです。

使用機器：MX ソーラタンクベース（三菱重工メカトロシステムズ株式会社）



より詳しい吉野町のシステムに関する概要及びその他関連情報は、日本カーシェアリング協会ホームページ（www.japan-csa.org）の本冊子特設ページにてご確認ください。

広がる

「コミュニティ・カーシェアリング」

石巻で生まれたコミュニティ・カーシェアリングは、様々な形で広がり始めています。



他地区へ

石巻市では、太陽光発電で充電した電気自動車を活用したコミュニティ・カーシェアリングの市内他地区への展開に向けて取り組みを進めています。まず、UR 都市機構と連携し、UR 都市機構が建設した復興住宅からニーズ調査を行い、ニーズを確認できた所に導入を進めることとしています。また、市としてコミュニティ・カーシェアリングを政策として位置づけるとともに、導入に向けた検討が始まりました。



▲ 吉野町での取り組みをモデルとして他地区へ導入

防災ネットワーク構築へ

先行して電気自動車によるコミュニティ・カーシェアリングが実践されている吉野町復興公営住宅を中心に、地域の防災体制や、太陽光パネルを設置している他の公共施設や住宅等との連携等を調整し、地域の中の防災ネットワークの構築を進めていく予定です。



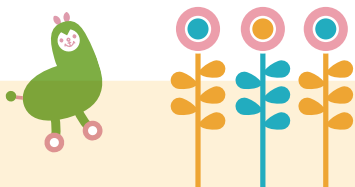
▲ 地域の非常用電源へ

過疎地へ

コミュニティ・カーシェアリングに過疎地域における地域公共交通を補完する役割を期待した自助・共助・公助を組み合わせた新しい公共交通のありかたについても協議がはじまりました。石巻市の半島部・沿岸部等を舞台に過疎化・高齢化が進んだ地域での交通のあり方に向き合っていきます。



▲ 公共交通までの移動を担う



離島へ

停電が起こりやすく、高齢化が進む離島における非常用電源確保のための電気自動車の活用、コミュニティ・カーシェアリングの活用の実践が行われます。石巻市内では網地島で電気自動車トラックが既に活用されており、続いて同じ宮城県の塩釜市の浦戸諸島でも、コミュニティ・カーシェアリングによる地域の防災や交通手段の確保を考えた検討が行われています。



▲ 停電の多い離島でEVが非常用の電源に

日本全国へ

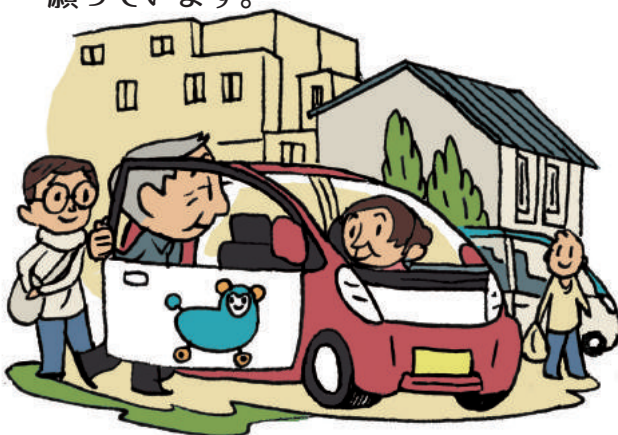
私達はコミュニティ・カーシェアリングを、被災地に限らず、高齢化が進む日本全国どこでも活用できる仕組みを目指して、活動を始めた当初より取り組みを進めていきました。

石巻市と塩釜市の案件で連携が始まったUR都市機構とは、被災地以外の場所での実施に向けても協議が始まりました。

こうした集合住宅を運営する事業者だけでなく、自治体、NPO、町内会等あらゆる単位で実践できるシステムを目指しています。

全国からの様々な支援を受けて石巻に生まれた『コミュニティ・カーシェアリング』。今度は石巻が全国にその仕組みを伝えながらご恩返しをする番です。

助け合いの連鎖から生まれたこの仕組みがこれからも更なる助け合いの連鎖を生み出し続けていくことを願っています。



あなたの町でも
コミュニティ・
カーシェアリングを
始めてみませんか？



この他にも『太陽カーシェア募金』にたくさんの方々にご協力いただきました。心より御礼申し上げます。

※当事業は、復興庁の平成27年度「新しい東北」先導モデル事業として実施しています。



石巻エコEVカーシェアリング検討委員会メンバー

石巻市（復興政策部 ICT 総合推進室・復興政策部地域協働課・復興政策部地域振興課・福祉部生活再建支援課・福祉部福祉総務課・建設部住宅管理課・復興事業部復興住宅課・復興事業部基盤整備課・環境部環境課・健康部包括ケア推進室）

山本憲一（石巻専修大学 理工学部 機械工学科 自動車工学コース 教授）

竹中 徹（石巻専修大学 経営学部 経営学科 准教授）

鈴木高宏（東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授）

増田 敬（石巻仮設住宅自治連合推進会 会長）

高木俊寛（三菱電機プラントエンジニアリング株式会社 災害対応型次世代エネルギー推進グループ 副本部長）

奥間保胤（株式会社CDS経営戦略研究所 パートナー）

吉澤武彦（一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事）



太陽カーシェア募金募集

石巻で自然エネルギーを活用したEVカーシェアリングのモデル作りを更に推進していくためにご協力をお願いします。

ご寄付 一口 1,000 円 ※一口以上も大歓迎です。 *他銀行から → 店名：二二九 店番：229
 ゆうちょ銀行 記号番号：02220-9-120559 預金種目：当座口座番号：0120559

✿ 通信欄に「太陽カーシェア募金」とご記入いただくか、「問い合わせ先」にあるメールにてご寄附についてお知らせください。

※寄付いただいたお名前をホームページに掲載させていただきます。（掲載をご遠慮されたい方は掲載不要と通信欄もしくはメールにご記入ください。）

石巻エコEVカーシェアリング検討委員会
 事務局 一般社団法人日本カーシェアリング協会

TEL/FAX：0225-22-1453 Mail：info@japan-csa.org
 HP：http://www.japan-csa.org/

カーシェアリング・コミュニティサポートセンター

〒986-0005 宮城県石巻市大瓜字鷺巣 45-1 仮設大瓜団地集会所内

OPEN JAPAN ボランティアベース

〒986-0821 宮城県石巻市住吉町 1-1-2

「よし、やってみよう！」
 と思った方、なんでも
 気軽にご相談ください。

